

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	R5.6.26
担当	課名 学校教育課 グループ名 学校教育グループ 記入者名

1 事業概要

(1)事業名	地域学(おがわ学)構築推進事業費	(2)事業種別(新規・継続)	継続	(3)事業性格(政策・一般)	政策事業					
(4)第5次総振での位置づけ	(5)予算・財源等の別									
①基本目標	豊かな心をはぐくむまち(教育・文化の振興)	①会計区分	一般会計							
②大項目	義務教育	②財源区分	国補助							
③中項目	生きる力をはぐくみ確かな学力を身に付けさせる教育の推進	③予算科目	款	10	項	1	目	2		
④施策	学習指導の充実	④予算事業名	地域学(おがわ学)構築推進事業費							
⑤施策コード	2・5・2・1	掲載ページ	42	ページ						
(6)実施根拠	(7)総合戦略									
①事務分類(自治・受託)	自治事務	①総合戦略(該当事業名)	地域学(おがわ学)構築推進事業費							
②根拠法令	おがわ学研究開発会議設置要綱									
③事業期間	開始	R元	年	6	月から	終了	未定	年	月	まで

2 事業の目的・対象及び内容

(1)目的(何のために行うか)	(3)手段(内容・どのような取り組みか)		
おがわ学の活用を通し、小中高の児童生徒が発達段階に応じて地域の歴史や産業を学び、地域へ参画し、郷土を愛する心と課題解決の能力を育成することを目的とする。また、地域の大人が関わることで地域を再認識し、地域への愛着を深め大人自身の学びにも繋げる。	幅広いコンソーシアムを設置し、多角的・実践的見地からわかりやすくまとめた「おがわ学」を地域全体で構築する。 小中高校が連携して、「おがわ学」の教材開発を行い、テキスト化する。研究発表会を行い、本事業を広く周知する。		
(2)対象(誰に対して、何に対して行うか)	(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)		
小川町立小中学校全児童生徒 (小川高校・地域住民)	児童生徒に対しては、郷土を愛する心が育まれるとともに、地域に参画しようとする態度が育成される。また、未来を生きるための課題解決能力が育まれる。 町部局と連携して取り組むことで町の活性化が図られる。		
対象数	1,509	単位	人

(5)事業を取り巻く環境(社会環境、町民ニーズ等)、団体、議会等からの要望など

新しい学習指導要領の基本理念である「社会に開かれた教育課程」の実現にも「おがわ学」の推進は重要である。「おがわ学」の構築は小中高校の連携のみならず、地域の方や、産業、観光等関係者、行政が連携して携わっている。地域や議会からも関心が高い事業となっている。(埼玉県連携事業)

(6)SDGsへの貢献



3 事業のコスト(実績・予算・決算) (単位:千円)

項目	(1)事業(内容)名称					
	地域学(おがわ学)構築推進事業費					
	決算・予算年度	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算
(2)事業費内訳	報償費	138	248	36	1,268	1,605
	需用費	0	1,660	406	317	334
	旅費	341	0	0	0	5
	委託料	0	0	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	84	0	75
	その他	0	0	286	0	0
	直接事業費合計	479	1,908	812	1,585	2,019
(3)財源内訳	国庫支出金	111	1,511	406	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	767	574
	一般財源	368	397	406	818	1,445
	合計	479	1,908	812	1,585	2,019
(4)補助金名	地方創生推進交付金	地方創生推進交付金	地方創生推進交付金	学校応援団事業費補助金	学校応援団事業費補助金	
(5)人件費	投入職員数	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2
	年間人件費	1,543	2,292	2,288	1,508	1,539
(6)総事業費	サービス量(人)	1,663	1,602	1,555	1,509	1,446
	サービス単価	1.2	2.6	2.0	2.0	2.5
(単位)	千円/児童・生徒1人あたり					

4 指標の検証(活動指標・成果指標)			地域学(おがわ学)構築推進事業費				
指標名			単位	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量:回数、延長、面積等)							
指標名	「おがわ学」構築のための運営委員会開催回数	目標値	回	4	4	4	
		実績値	回	4	3		
		達成率	%	100.0	75.0		
	「おがわ学」構築のための担当者会議開催回数	目標値	回	12	10	12	
		実績値	回	6	8		
		達成率	%	50.0	80.0		
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度:人数、世帯数、件数、団体数、コスト指標等)							
指標名	開発された小中学校の「おがわ学」の教材数	目標値	教材数	—	8	8	
		実績値	教材数	—	8		
		達成率	%	—	100.0		
		目標値					
		実績値					
		達成率					
(3)その他指標に現れない成果							
<p>今まで詳しく知らなかった小川町の魅力について知ること、小川町に愛着をもった子供たちが増えた。また、小川町の良さや課題を再発見することで、より良いまちづくりに対する問題解決への意欲につながった。加えて、大人のおがわ学や地域の人々のフォーラム参加を通して子供たちだけでなく、地域全体で関わり学んでいく取り組みに発展している。</p>							
5 事業評価							
(1)項目別評価							
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。		
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	2	1 事業の実施が関係法令等で定められている		
					2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である		
					3 その他()		
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業の主体が関係法令等で定められている		
					2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である		
					3 その他()		
	手段の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している		
					2 他に有効な代替手段が見当たらない		
					3 その他()		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	2	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	3	1 サービス単価は減少している		
					2 サービス単価を維持している		
					3 その他(社会的に期待の大きい事業であるが、効率的な予算編成となっているか検討を要する。)		
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている		
					2 おおむね公平に分配されている		
					3 その他()		
有効性	成果の向上	1	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている		
					2 成果指標は、前年度より向上している		
					3 その他(広範囲の方の多角的な視点で協議が進むため、時間を要する。)		
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	2	1 年度内に予定した事業は完了した		
					2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した		
					3 その他()		
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、問題点や課題を記載してください。)							
<p>おがわ学の構築を3年間かけて行い、今年度は構想をもとに骨子(授業計画)にある授業実践や研究協議等を行った。また、小・中・高で連携を図り、小川高校にて地域に公開したフォーラムを行った。おがわ学の授業公開、体験、実践発表を行い、地域住民の方々に周知することができた。今後も継続的に地域住民への周知、協力依頼を行い、安定した持続可能な事業となるよう検討していく必要がある。</p>							
6 事業の方向性の判断							
		1 拡充		2 現状維持		3 縮小・統廃合	
評価主体	(1)一次評価 (担当課長)		(2)二次評価 (政策推進課長)		(3)最終評価 (町長)		
評価	2		2				
説明	地域素材を活かした学習は、児童生徒に郷土の再発見や郷土愛を育むことにもなり、今後も取り組むべき事業である。		おがわ学は当町の特色ある取組である。児童生徒のみならず、地域住民の方々も携わる事業として継続する。				